

## 1 題材名 ようすをおもいうかべて ～ アンダソンのユーモア ～

## 2 授業構成

## (1) 教材に対する反省と新しい提案

本題材は、学習指導要領

B鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して

ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどとして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

【共通事項】(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

(イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み

に位置づけられる。

本校音楽部では、近年「鑑賞」に焦点化した教材研究を行ってきた。鑑賞曲の選択、鑑賞態度の育成を図る手だてや共通事項の精選を行った結果、各学年で鑑賞の力が育ってきている。しかしその一方で、教師の教材研究(特に楽曲分析)をもとに予想した児童の反応と実際の児童の反応との間に想定外のギャップが見られ、児童の実態に即した授業展開の仕方や児童が感じ取ったことを表現する方法などの選択等、新たな問題点が浮上している。児童の思考が深まっているように見えていた活動は、何をどのように聞いたらいいかという迷いや困惑であったり、教師の求める答えを探ったりする姿なのかもしれない。そうした児童にどのような指導言を与えればよいのだろうか。児童自らが主体的に楽曲に向かうためには、どのような支援をすればよいのだろうか。こうした課題をもとに、よりふさわしい児童の反応が得られるよう、授業展開を考えたい。特に、楽曲全体の俯瞰と対比に焦点をあてた授業づくりを行いたい。

## (2) 子どもの学びの実態・期待する学び方

本学級は男子17名・女子17名、計34名である。音楽好きな児童が多く、学級朝の会では朝の歌を元気に歌ったり、美しく歌ったりと曲の気分を感じ取って歌を楽しむ姿が見られる。また、読書の時間にも歌集を開いて知っている曲や学習した曲を口ずさむ児童もいる。一方、音楽の学習では全体での活動や指示された活動には全員が取り組むことができるが、音楽を感じ取って自由にことばや動きで表現する活動においては個人差が大きい。音楽に合わせて手拍子をしたり、身体を揺らしたりする児童もいるが、鳴っている音楽をただ聞くだけで何をどのように感じたのかを表現できない児童の方がはるかに多い。これまでに児童は「はくをかんとろう」「はくにのってリズムをうとう」の題材において音楽に合わせて手拍子をしたり、打楽器でリズム打ちをしたりして拍を感じ取ってきた。「ぶんぶんぶん」の教材においては、教師や教科書が示すリズムをうつだけでなく、音楽に合うリズムをいろいろと試して発表できる児童が増えてきているように感じた。しかし、「シンコペーテッドクロック」を鑑賞した際には、初めての鑑賞教材ということもあり、児童自身が音楽をどのように聞いたらいいか、聴いて感じ取った何をどのように表現したらよいのか分からないでいたように思う。「とけいの針になって動いてみよう」とか「音楽に合わせて身体を自由に動かしてみよう」という声かけだけでは、身体表現を苦手とする児童にとっては苦痛の時間だったかもしれない。低学年の時期だからこそできる活動を友だちと一緒に楽しみながらも、感じ取った音楽を自分なりに表現する楽しさを味わう姿を期待する。

### (3) 本時の学習に向けての教材研究

#### ① 楽曲の分析について

本時で扱う「おどるこねこ」（アンダソン作曲）は、各教科書会社で掲載されている教材である。その特徴としては、①身体反応の快さを感じ取りやすい＝3拍子のワルツに合わせて自然に体を揺らしたり、なきまねをしたりすることができる。②日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい＝身近な動物として親しまれている猫をテーマとしているため、子どもの興味を引き出しやすい③音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい＝大きく分けて  $a - a' - b - a - c o d a$  という構成になっているので、 $a$  と  $b$  の楽曲の気分の違いを感じ取りやすい。また、速度の違う  $a$  と  $a'$  との部分があることに気付くこともできる④楽器の音色を感じ取りやすく親しみやすい＝くり返し出てくるヴァイオリンによる猫の鳴き声に集中して聴くことができる 楽曲であるといえる。

曲想： ヴァイオリンを猫の擬声に用いた、描写的な3拍子のワルツ

【形式】 序奏－ $a - a' - b - a - c o d a$  (三部形式)

【リズム】 序奏：8分音符と4分音符による軽快なリズム

$a$ ：4分音符を中心としたゆったりとしたリズム

$b$ ：付点のリズムや3連符が加わった躍動的なリズム

【旋律】 序奏：6度の跳躍進行が繰り返され、最後の1小節は下降型順次進行

$a$ ：同じ音型が繰り返され、猫の声を表現しているグリッサンドが特徴的

【拍子】 4分の3拍子（コーダのみ8分の6拍子）

【調】 ト長調

【奏法】 序奏：スタッカート

$a$ ：レガート

$b$ ：装飾音やスタッカートが交互

コーダ：主旋律はスタッカート。3拍子を刻むヴァイオリンはピチカート奏法。

【音色】 序奏：主旋律はヴァイオリン／木管楽器

$a$ ：主旋律はヴァイオリン／木管楽器，第3フレーズで金管楽器が加わる。

$a'$ ：主旋律はヴァイオリン／木管楽器，金管楽器

$b$ ：主旋律はフルート／ピッコロ，オーボエ，ウッドブロック，ウインドホイッスル  
(コーダ：犬の鳴き声→猫の鳴き声)

【強さ】 序奏： $mp$   $a$ ： $mf$   $a'$ ： $f$   $b$ ： $mf$

コーダ： $mf$ → $cresc.$ → $cresc.$   $sfz$

【速さ】 序奏： $andante$

$a$ ： $tempo di valse$  (付点2分音符＝60)

$a'$ ： $piu mosso$  (付点2分音符＝76)

$b$ ： $piu mosso$  (付点2分音符＝80)

コーダ： $presto$  (付点4分音符＝176)

## ② 児童の実態とねらいについて

児童の実態については上記に記した。そもそも身体表現とは何か。これまでの児童を見ていると、身体は動かさないが、音楽を感じ取っている児童がほとんどである。だから、ここでは身体全体で感じ取った音楽を自分なりに表現することを含めて身体表現と捉えることにした。音楽を聞きながらまたは聞いて、①身体全体をゆらす・動かす＝全く自由な動き→無意図的活動 ②身体の一部を動かす＝手拍子・足拍子・指揮等→意図的活動 ③絵や文でかく→分析的活動 これら3種類の活動を学級全体の場で広げ、ことばを紡いでいくことで自分の思いを学級のみならずと共有化したい。感じ取った何かを見取することは教師の力量にかかっているが、こうした活動で授業後も振り返る学びの跡を残すこともできるとも考える。

次に無意図的活動に意識をもたせるために、動物の鳴き声や動きを真似る活動や動物をテーマにした音楽を聴く活動を数多く取り入れ、リラックスできる雰囲気を築きたい。本時に向けて「ねこ」「こねこ」についての児童の自由な発言にも耳を傾けて授業に生かしたい。

また、分析的活動を促す前にさまざまな表現方法を知る活動が必要だと考える。体験していないことを求めることはできない。そこで曲の聴き方つまり鑑賞態度のサンプルをいくつか共通体験させることで基本的な鑑賞の仕方を身につけ、自分に合った表現方法を選択しながら鑑賞する態度が身につくと考える。

本時は、児童が楽曲の気分を感じ取り、自分に合った身体表現を選択して表現活動に取り組み、友だちと共有し合う姿を期待したい。

## 3 題材の目標

楽曲の気分を感じ取って想像豊かに聴いたり、歌詞の表す情景を思い浮かべて表情豊かに歌ったりする活動を通して、表現の仕方を工夫することができる。

## 4 学習計画 (全5時間)

第1次「象～『動物の謝肉祭』から」	(サン＝サーンス)	1時間
「くまばちはとぶ」	(リムスキー＝コルサコフ)	1時間
第2次「おどるこねこ」	(アンダソン)	1時間：本時
はるなつあきふゆ		2時間

## 5 本時の学習について

(1) 本時目標・・・様子を思いうかべながら、楽曲の気分を感じ取ることができるようにする。

○音楽に合わせて楽しく身体表現をしたり、感じ取ったことをすすんで表現したりする。(関心・意欲・態度)

○音楽を特徴づける楽器の音色や速度の違いを捉えることができる。(音楽的な感受や表現の工夫)

(2) 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
<p>1 動物になりきって動いたり，動物をテーマにした歌を歌ったりする。</p> <p>2 本時の学習のめあてを知る。</p>	<p>○動きが大きかったり，音楽に合わせた動きをしていたりする児童を取り上げて教師自身も楽しむようにする。</p> <p>・無意図的活動を全員で行い，一体感や安心感をもてるようにしたい。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">ようすをおもいうかべて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">?</div>	
<p>3 こねこの様子を思い浮かべながら4回聴く。 「おどるこねこ」 a a' を4回聴く。</p> <p>1回目 自由に聴く。 2回目 自分のコースを選ぶために聴く。 3回目 自分のコースで表現しながら聴く。 4回目 自分のコースを確認するために聴く。</p> <p>4 楽曲の構造を知る。 【音楽の構造】 a - a' - b - a - コーダ</p> <p>5 bをくり返し聴き，感じ取ったことを書いたり，発表したりする。 【速度】 a と a' 【リズム】 a a' と b, コーダ 【楽器の音色等】 ・ヴァイオリン ・ウインドホイッスル ・ウッドブロック ・ねこの鳴き声 ・犬の鳴き声 どこにいるのかな・何匹でおどるのかな・どんなおどりかな・なにがどう変わっていくのかな ・2匹でおどる → いろんな友だちとじゃれあう → 2匹でおどる → 犬に追いかける ・2匹でおどる → なかまがふえる → 2ひきでおどる → 犬に追いかける</p>	<p>○3つのコースの中から自分が好きな方法を選んで活動に取り組めるようにする。</p> <p>① 青：こねこコース（無意図的活動）：こねこになりきっておどる ② 黄：しきしゃコース（意図的活動）：体の一部分を使ってこねこのおどりを表現する ③ 緑：えかきコース（分析的活動）：おどるこねこを想像して絵やことばで表現する</p> <p>・自分でコースを選ぶことで主体的に活動に取り組ませたい。 ・色分けを他者にもわかるようにすることで，表現活動に意識をもたせて児童同士・教師が活動を見取ることができるようにする。</p> <p>○3つの部分に分けてきくことで，曲想の変化を視覚的にも捉えられるようにする。</p> <p>・曲想の違いが視覚的にわかるよう，a - b - a - コーダ の4種類の貼り絵を掲示したい。</p> <p><b>(楽曲全体の俯瞰)</b></p> <p>・コース毎に構造を記したシートを配り，猫の鳴き声が聞こえたところに，猫マークをはることでaとbの違いの1つを明らかにできるようにしたい。</p> <p>○猫の鳴き声を真似したり，猫の踊りを想像して身体を動かしたりしている子ども，拍の流れにあった動きをしている子ども，絵や図で表現している子どもを取り上げ，音楽の流れを感じ取って聴くようにする。<b>(対比)</b></p> <p>・児童の発言をつなげて板書することでaとbの違いを捉えさせたい。 ・全員に付箋を配り，感じ取ったことを書くことで友だちと交流したり発表したりしやすくし，全体で共有化したい気づきを取り上げたい。</p> <p>○それぞれのコースの気づきを共有化し，aとbの違いを分析的に捉えられるようにする。</p>
<p>5 学習のふりかえりをする。</p>	<p>○最後に <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">?</div> には <b>ひょうげんしよう</b> が入ることを知らせ，自分のコースで曲の全体を聴いて楽しみ，楽曲の楽しさを味わい，アンダソンのユーモアにふれられるようにする。</p>